

2021/6/29

オマケの英語教室

今あるものを使おうシリーズ

さくらんぼ (cherry) 書庫版



現在山形在住の、大学時代からの友達がさくらんぼを送ってきてくれました。

毎年この季節になると必ず送ってきてくれるのですが、それがもう 40 年近く毎年。

山形はさくらんぼの名産地で「佐藤錦」に代表される高級ブランドで有名な地域です。

例えば上述の「佐藤錦」であれば、いくら産地であっても決して安い値段で手に入るものではなく、しかも今年は例年にない不作だったとか。

それを自分のみならず他に 3 人、合計 4 人分を 40 年間も送り続けているわけですから、いくら友達とはいえ心底頭が下がります。

その友達は今山形の或新聞社傘下の広告会社の社長さんをしてしておりますが、コロナ禍での御多分にもれず近隣地域全体のイベントの大幅激減で受注件数、受注額共に大幅に減少する中、止む無く社員を休業させざるを得なくなったのですが、それでも給料だけは以前と変わらずに支給をするような「大変な苦勞」もしている中でのさくらんぼでしたので、益々有難味を感じられた訳です。

話は変わりますが、自分は今独り暮らしです。

なので、さくらんぼ一箱戴くのは大変ありがたいのですが、自分一人が食するにはいささか量が多すぎます。

そこで、これも近年来毎年なのですが、従業員やお世話になっているお店傍の同業者さんにお裾分けすることにしております。

その中で、依然ここに勤めていて、今は他のレストランで臨時雇いとして働いている元従業員さんにメールで

「いつものさくらんぼが来たよ。お裾分けするから取りにおいで」

と打ったのですが、その際「さくらんぼ」を表すのに cherry だけでもすむ処、敢えて cherry fruit と書いて送信しました。

My friend in Yamagata sent to me a pack of 「cherry fruit」 usually. I'll share it to you. Plz come to pick it up.

何故か？というと cherry だけ書くと、書いた季節によっては人によって cherry blossom (桜の花) を思い浮かべる人もいるので、桜の花と区別するために敢えて「fruit」をつけた訳です。

特にメールの送り先が既婚女性で、旦那さんがそのメールを見て早とちりされても困りますので。

こういう話は学校の英語の授業では教えてもらえません。

しかし、実際に生活の中で英語を使っていると、必要欠くべからざる知恵として備わってくるものようです。

おそらくポケトークなどの音声自動翻訳機でも「cherry」としか出てこないでしょう。少なくとも今の段階では。